

## インターバンクの声（2016年8月16日）

週明けの海外市場の円相場は、東京時間よりも動きがあったとは言え、結局 101 円 00 銭を挟んで上下に 20～30 銭の値動きに留まった。特にニューヨーク市場の午後 3 時あたりからはドル/円ばかりでなく、ユーロやポンドの値動きもほとんどなくなった。ニューヨーク市場の中盤にドルが若干強含んだ理由に全米ホームビルダー協会 (NAHB) とウェルズ・ファーゴが発表した 8 月の住宅市場指数が前月の 58 から 60 に上昇したことを挙げている朝のビジネスニュースもあったが、ニューヨーク連銀が発表した 8 月の NY 州製造業業況指数は逆に前月から低下していたこともあり、指標結果が原因とも言い切れないだろう。指標に注目すべきなのはむしろ今晚で、7 月の米消費者物価指数、同じく住宅関連指標や鉱工業生産などの数字が相次いで発表される。先週末に発表された小売売上高や生産者物価指数の冴えない内容に続いて消費者物価指数も落ち込めば、明日の 7 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) の議事要旨発表を待たずに、ドルが売られ始める可能性もあるだろう。ただ、豪準備銀行(中央銀行)の 8 月 2 日理事会の議事要旨の発表はあるものの、東京時間は相場材料も少なく、昨日と同じように方向感が出難い一日になりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。